豊田中央新聞

豊田中央クラブ　優勝

第69回中日少年野球大会
豊田・みよし地区予選

中日旗は２年ぶり２回目

中盤集中打で突き放す

美里中学校	0	1	0	0	1	2	
豊田中央	0	1	2	5	1	9	

（令和７年５月２４日（土）　豊田市棒の手野球場）

【戦評】第69回中日少年野球大会豊田みよし地区予選は24日、豊田市棒の手野球場で決勝戦が行われ、豊田中央クラブが美里中学校を9-2（規定により5回コールド）で下し2年ぶりとなる愛知県大会出場を決めた。後攻の豊田中央クラブは2回に1点を先制されたが、裏の攻撃で山内（3年・美里）の左越え2塁打で同点に追いつくと、続く3回には岡本（3年・益富）の右越え2塁打と秋岡（3年・朝日丘）の犠牲フライで勝ち越しに成功。4回にも鈴木幸（3年・崇化館）が左中間3塁打で出塁すると、四死球を挟んで秋岡、川上（3年・朝日丘）のタイムリーで5点を追加し試合の流れを完全に支配した。先発した鈴木旺（3年・藤岡）は低めの制球にやや苦しんだものの要所はキッチリと締めくくって美里打線を2安打に抑えた。優勝した豊田中央クラブは8月3日から行われる熱田・パロマ瑞穂球場で行われる県大会に出場する。

３回、勝ち越しの犠牲フライを打つ秋岡（３年・朝日丘）

チーム一丸となって

「この決勝戦は今までで一番チーム一丸となって試合ができた」と主将の勝上（3年・高橋）は試合を振り返った。チーム目標でもある県大会勝利を目指して挑んだ5月初旬の全日本少年の県大会は相手の好投手を攻略できず2-3で初戦敗退。「県大会が終わって気持ちが緩むのが心配だった」と練習ではチームのモチベーションが落ちないように周りに声をかけ続けた。

より攻撃的に

「初球から積極的に打っていくという意識は前回、前々回にくらべて強くなっている」という主将の言葉通り、今大会では積極的にスイングする姿が多くみられた。とくに決勝戦では前大会で苦しめられた投手のカウントを取りに来るボールを見逃さず攻略するなど課題であった攻撃面でも確かな成長を見せた。

０勝８敗から

０勝８敗。４期生が１年生で初めて参加した公式戦の成績は全敗。そんな弱小チームが最上級生になると３本の優勝旗を勝ち取るまでに成長した。「チームはものすごい成長してて、ミスしてもお互いにカバーしあったり次に切り替えていけるのが強み。県大会まであと２ヶ月、僕たちには伸びしろしかないのでもっとうまくなって県大会勝利を達成してさらに優勝を目指したい」と負けからスタートしたチームはさらなる高みを目指し県大会に挑む。（宇田）

（中日少年・豊田みよし予選）

２回戦
豊田中央２－０末野原中学校

３回戦
豊田中央４－１藤岡クラブ

準決勝
豊田中央９－３朝日丘中学校